

要注意!!



RSウイルスから こどもを守ろう!



小さい子のお母さんは
注意してね。

RSウイルスって

RSウイルスは冬場に乳幼児を中心に流行し、ほとんどの小児が3歳までに感染する身近なウイルスです。

RSウイルスは乳幼児を中心に流行し、ひどい下気道感染症を引き起こす恐れがあるため注意が必要なウイルスです。

冬場に流行し、11月～12月にかけてピークを迎えます。(ただし夏場も感染のおそれがあります。)

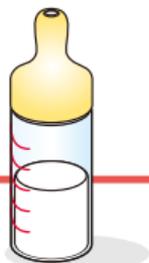
詳しくは
中面を読んでね!



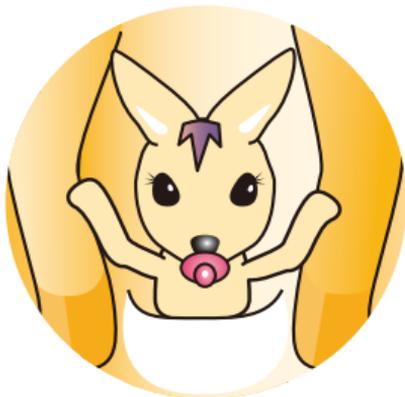
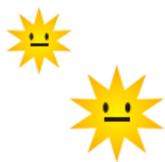
身近にいるの？

RS ウイルスの感染経路はせき、くしゃみなどによるひまつ感染、手や指、物(おしゃぶりなど)を介した接触感染などがあります。

感染した場合の潜伏期は
4～8 日程度です。



集団生活の場で感染するよ。
小さい赤ちゃんはお母さんが
予防してあげてね。



RSウイルスの病気

乳幼児の下気道感染症の最大の原因が「RSウイルス」です。

特に生後3ヵ月までの乳児のRSウイルス感染は、基礎疾患のない乳児においても呼吸障害のリスクが高いとされています。

RSウイルスの症状



発熱

鼻水

せき

喘鳴※1

※1 喘鳴(ぜんめい)・・・「ぜえぜえ」と喉が鳴る事。

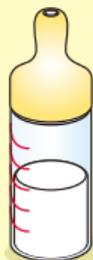
RSウイルスは生後1年間で大半の乳児が感染し、3歳までにほとんどの小児が抗体を獲得します。

再感染もしますが、成長に伴って重症化する確率は低下します。感染症で入院を要するのは、ほとんどの場合生後6ヵ月以内の乳児です。また免疫の弱まっている人や老人は重症化する恐れがあるので注意が必要です。

感染の予防

感染を予防するには以下のような方法があります。

おもちゃ・おしゃぶりなど乳幼児が使う物は
いつもキレイに清潔にしましょう。



お兄ちゃんやお姉ちゃんからうつることが多いので、
お兄ちゃんやお姉ちゃんは次のことに注意しましょう。

せっけん・消毒液で
手を洗おう。



外ではマスク着用。
うがいしましょう。





RSウイルスかな？ と思ったら。

- ☑まずは医療機関で受診しましょう。
- ☑安静にして休養を取りましょう。
- ☑十分に水分を取るようにしましょう。

RSウイルスは
検査でわかるよ。

RSウイルスに特効薬はありませんが、他の人にうつさないために必ず検査を受けましょう。

また、症状をやわらげる対症療法も可能ですので医師にご相談下さい。



RSウイルスの検査

RSウイルスの検査は鼻から採取した試料を用いて簡単に行うことが可能です。

RSウイルス感染の診断は、臨床症状および検査結果を考慮して医師が総合的に判断します。

RSウイルスの流行時は、風邪かなと思ったら早めに病院で受診しましょう。



RSウイルス感染の症状は小さいお子さんほど悪化する恐れがあります。十分に注意して下さい。





病院・医院名

監 修

川崎医科大学 小児科 教授
医学博士 寺田 喜平

製 作

株式会社 ミズホメディー
MIZUHO MEDY Co., Ltd.